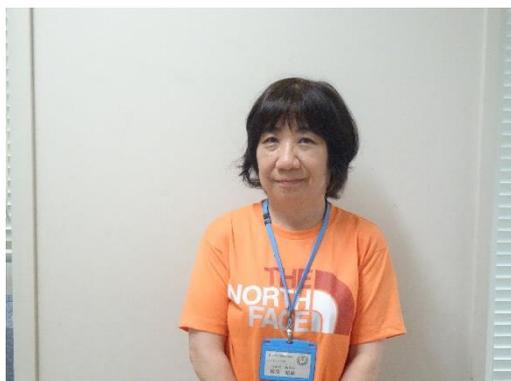


地域の力 ～荒町小学校 地域の方々からの温かな支援～

仙台市荒町小学校は、市中心部にあります。学区内への大学の移転などで、地域では新たな賑わいも見られます。また、学校のすぐ近くには、歴史ある「荒町商店街」があり、連携した取組を多く実施しているとのこと。学校支援地域本部の活動も活発で、様々な面で学校をサポートしています。今回はその中から、「図工サポーター」と「回文うちわづくり」の活動について取材しました。



スーパーバイザーの塚田さん

学校支援地域本部スーパーバイザーの塚田さん。2011年からスーパーバイザーを務め、学校を支えています。

塚田さんは「荒町小には、保護者ではなく地域の方がたくさん関わってくれている。保護者とは違う視点で子どもたちの成長を見守ることはとても重要なこと。自分もそのお手伝いができればと思い、スーパーバイザーを引き受けている。」「先生たちは、人事異動で違う学校に行ってしまう。これは仕方のないことで、だからこそ、地域の伝統を守っていくためには、私たちのような地域の力が必要。」と話してくれました。

授業のサポートをする際は、「自分たちはあくまでもサポート役」と、手を貸しすぎないことに注意しているとのことでした。「戸惑っている子どもたちへのアプローチ」が重要だと考えているそうです。「先生たちからも『できるかぎり自分で』と言われている。困っている子どもの背中をそっと押してあげられればと思っています。」とのことでした。また、子どもたちから「明日も来てくれるの?」と言われることがとてもうれしいそうです。



小1 ボランティアの方もお手伝い

【「図工サポーター」の様子】

地域で活動されている NPO 法人「ワンダーアート」の高橋さんが特別講師にいらしました。初めて絵の具を使う1年生の学習に、高橋さんのほか地域の方や大学生が子どもたちのサポートを行っています。「好きな色を2つ出すんだよ。」「バケツの水に気を付けてね。」といった優しい声掛けのもと、子どもたちが安心して取り組む様子が見られました。担任の先生も「サポートしてもらい、とても助かっています。地域の力の大きさを感じます。」と話してくれました。

木村教頭も、地域の方が積極的に関わってくれることへの教育的効果を実感しており、「たくさんの大人が活動に協力してくれることで、荒町小の子どもたちは、大人への信頼感や社交性がいつのまにか身に付いています。地域の方々に話しかけられたら、自然な受け答えをする子どもたちが多く感じています。これも、様々な場所で、様々な大人が関わってくれるからだと思います。」とのことでした。

地域の方々の積極的な関わりと、温かな声掛けが子どもたちの自己肯定感の高まりや、より良い人間関係づくりにつながっています。



描きたいものをダイナミックに



ボランティアの大学生も一緒に

【荒町小学校の特色ある地域学校協働活動「回文うちわづくり」の様子】

荒町地区に昔から伝わる「回文うちわ」。この荒町伝統のうちわづくりに、商店街の副理事長庄子さんの指導の下、3年生が取り組んでいます。庄子さんは「この活動は、先生方の『ぜひ子どもたちに取り組ませたい』という熱い思いから始まったもの。先生たちの思いに、少しでも力になりたいと考えている。」「子どもたちに荒町小学校を卒業したことを誇りに思ってもらいたい。また、中学生になったとき、『今度は自分たちが力になりたい』と思える子どもたちになってほしいですね。」と話してくれました。



副理事長の庄子さん

子どもたちは、地域の皆さんに助けられながら楽しそうに活動していました。活動後の感想に、「上手と言われてうれしかった。」「自分たちだけでは作れなかった。」「楽しかったので、大人になったら自分も手伝いたい。」などの感想がありました。完成したうちわを、笑顔で友達と見せ合う姿がありました。この活動を通して、地域の方々との距離がまた少し縮まったのではないのでしょうか。



多くの地域の方のお手伝い



完成！全員上手にできました！！

関連リンク：荒町小学校の HP
はこちらから

